

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874200256		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホーム さくら館	ユニット名	1
所在地	〒300-2748 茨城県常総市馬場2245		
自己評価作成日	平成27年6月23日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0874200256-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年8月26日	評価機関 決 済 日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>食は命を支えるエネルギー源であり、「生きることは、食べること」です。おいしく食べて明るく元気に過ごしていただくことを継続していくこと、それは介護予防の一步だと思います。また、一日3度の食事は生活基本であり食生活のきちんとしている家庭は、生活もきちんとしています。入居者と職員と一緒に準備や食事、後片付けをし、共に支え合い、助け合い、いたわり合いながら暮らしていきたいと考えています。また、物忘れは多いとしても、「感情は豊かで、敏感で繊細なお年寄」を家族と共に支える生活を大切にしていきたいと思います。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は同一法人の特別養護老人ホームと通所介護事業所が隣接しており、避難訓練や研修、納涼祭、ボランティアの慰問による催しを合同で行うとともに、看護職員や管理栄養士などと日常的に協力関係を築いているため、利用者は地域住民と活発に交流ができるほか、健康管理や利用者一人ひとりにそった支援ができる環境となっている。</p> <p>管理者は「生きることは、食べること」や「3度の食事は生活基本」と職員に指導し、利用者一人ひとりに合った食事形態で提供するとともに、利用者のペースに合わせた食事時間にするなど、のんびりと落ち着いて食事を楽しむことができるように配慮している。</p> <p>週1回の職員会議で、利用者の思いや体調の変化など、知り得た情報はすぐに職員で共有するとともに、問題が生じた場合は随時夜間に会議を開催し、休日の職員も参加して話し合うなど、すぐに全職員で共有認識が持てる仕組みとなっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人の命は地球より重い」の理念を基に、職員会議等で管理者および職員は常時確認している。ミーティングやカンファレンス時に全職員の共通の理解のもと利用者をサポートしている。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、玄関と事務室に掲示している。 管理者と職員は週1回の職員会議時に理念を唱和して共有し、理念にそって支援できているか再確認をしながら、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。たとえば、散歩・買い物などで、地域の人との交流を通じ、顔なじみの関係を作っている。	毎年夏に利用者や家族等、地域住民との交流を目的とした「納涼祭」を同一法人が運営する隣接の特別養護老人ホームと合同で開催し、家族等や地域住民を招待して利用者が交流できるよう支援している。 利用者は同一法人が運営する保育園の運動会に招待され、職員と一緒に見学するとともに、散歩時に保育園に立ち寄りながら保育園児と交流しているほか、隣接の特別養護老人ホームにボランティアが慰問に来訪した際には利用者も一緒に参加するなど、日常的に地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースでボランティア慰問会、夏祭り、駐車場で花火大会等の開催を地域代表の方に事前に連絡し、地域の方々に参加していただき、触れ合う機会のなかで認知症を理解してもらい、いざという時支援していただけるような関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催、家族代表者、民生委員、地域代表者、行政の方に参加して頂いている。皆さんから率直な意見をお話しいただける場として有効に活用させてもらっている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告、写真を見ながら誕生会や行事の報告を行うとともに、課題などを話し合っ委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「外食を取り入れた外出支援を試みてはどうか」との提案があり、現在検討している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えたり市町村担当者に情報をいただいたりしながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は運営推進会議や年2回から3回開催するグループホーム連絡会の時に、市の担当者との情報交換を行うとともに、書類の書き方などのわからないことがあった場合は、電話で助言を得るなどにより、協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。たとえば、全職員の目に付く所に拘束について掲示している。	身体拘束を行わないことを運営規定や契約書に明記するとともに、週1回の職員会議で確認し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 職員は身体拘束排除マニュアルをもとに内部研修を行い、身体拘束の内容と弊害を理解しているほか、外部研修を受講した職員が、職員会議で報告するとともに記録に残し、全職員で共有しながら身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は外部研修および内部研修に参加して学習機会を持っている。全職員で高齢者虐待防止について学び、虐待が見過ごされる事のない様に注意を払い、防止に努めている。たとえば、全職員の目に付く所に虐待について掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員で地域権利擁護事業や成年後見制度について研修し、必要な入居者にはそれらを活用出来る様に支援している。又、研修時の資料は、職員がいつでも活用できる場所に置いてある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務が契約時に明確に示され、入居者とその家族に十分説明し同意を得た上で、サイン・捺印をもらっている。	/		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等に関する相談窓口や担当者を設置している。又、面会時や行事の時などさりげなく家族等の意見や不満・苦情を聞き、運営に反映させている。外部評価の結果をいつでも閲覧出来るように、玄関に配置している。	管理者と職員は利用者からは日々の会話から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くように努めている。 家族等から多くの意見や要望が得れるよう玄関内の棚に意見箱を設置するとともに、定期的に無記名のアンケートを実施している。 家族等から「いつも同じ服ばかり着ているので、持参しているほかの服も着せて欲しい」との意見を受け、管理者は職員と相談した結果、利用者の皮膚の状態や気候により服の素材で着る服を決めなくてはならないことを家族等に説明した。	/	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、打ち合わせや職員会議等で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は週1回の職員会議時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「牛乳や冷めたおかずなどを温めて利用者に提供したい」との提案を受け、管理者は電子レンジとトースターを購入するなど、職員の意見等を運営に反映している。	/	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的にすすめている。月1回の法人内で研修する機会、外部研修に参加させるなど積極的に働きながらスキルアップできる環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が特養さくら館との交流や合同研修会等で他の同業者と交流する機会を持ち、勉強会、相互訪問等の活動を通じて情報を交換し、サービスの質を向上させていく取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時からグループホームの生活に慣れるまで、本人が困っていること、不安なこと、要望等に特に注意して耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に常に耳を傾けながら、信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等との話し合いの中で「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、本人の豊かな人生経験から学ぶなど、労わり合い支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、これからの生活を前向きにとらえて、本人を共に支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、これからの生活を前向きにとらえて、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、電話・手紙などの連絡の支援にも努めている。	利用者の日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。 利用者の馴染みの理容師が月1回事業所に来訪しているほか、馴染みの店での買い物や外食、墓参りなどに行きたい場合は家族の協力を得ながら、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が楽しく関わり合い、お互いに支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や自宅に戻るなどしてサービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して家族の協力をお願いしたり、職員の関わりを見直したりして希望に沿うようにしている。	管理者や職員は、入居時の「基本情報シート」から利用者の生活歴を把握しているほか、日々の関わりの中で会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者は、表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員で話し合っって利用者の思いなどを汲み取るように努めている。 把握した内容は「個人ケース記録」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や日頃の様子を話し合いながら、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。たとえば、夜間の様子・起床時の様子・バイタルチェック等を含め、朝の申し送り等で職員間で連絡をとり入居者一人一人の把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、利用者一人ひとりの状態を把握するとともに家族、必要な関係者や本人と話し合い、本人の思いを尊重するようなケアを考慮した介護計画を作成している。	介護計画は利用者の意向や家族等からの要望、医師の意見、職員の意見などを取り入れて作成するとともに、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月から6ヶ月で見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録（介護記録）に記入し、職員間で情報を共有しながら、職員会議等で実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（外出・買い物等）にも取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（外出・買い物等）にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が開催する催し物への参加や、地域の保育園との交流を楽しんだり、消防署と合同開催する消防訓練に参加するなど、豊かで安全な暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、なじみのかかりつけ医に受診する事ができる。又、通院介助も行っており、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 かかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本とし、受診時には職員が利用者の体調などを書いた手紙を医師に渡してもらっている。 週1回協力医療機関の医師による訪問診療が受診でき、受診結果は家族等に電話で報告するとともに、「個人ケース記録」や「連絡ノート」に記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に気軽に相談できる関係を構築しているため、日常の健康相談や医療行為の支援を得られることができる。そのため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。併設した特養とともに週に2回、回診日があり、受診できる体制づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・家族と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合や看取りに関する事業所の指針を、利用者や家族等に説明している。 看取り介護は6、7年前に1例経験しており、状態に応じて段階的に書面で同意を得ている。 事業所独自の「ターミナルケアマニュアル」を作成して研修を行っているが、重度化や看取り介護の経験のない職員に対して十分な研修までには至っていない。	重度化や終末期、看取り介護に向けて、全職員の精神面や支援に向けて話し合うとともに、役割や支援内容など具体的な研修を行うことを提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルをもとに、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、〔月1回の避難訓練の実施〕地域との協力体制を築いている。	避難訓練は消防署立ち会いのもと、隣接する同一法人の特別養護老人ホームと合同で年2回実施しているほか、事業所独自の夜間想定を含めた避難訓練を毎月実施し、地域住民の参加を得ている。 訓練後に反省点や今後の課題などを話し合っって記録に残しているほか、非常時に備えて地域住民の代表と民生委員を含めた緊急連絡網を作成している。 災害に備えて食糧や飲料水は隣接する特別養護老人ホームで一括して備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不安やストレスを与えないように、入居者を思いやりながら、入居者の気持ちを受け止め、言葉かけ等をする。	管理者や職員は、利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握したうえで、利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援している。 個人情報を使用する場合は、その都度使用目的を明記して利用者や家族等に同意を得ているが、書面にて同意を得るまでには至っていない。 個人情報に関する書類は、事務室の机の鍵のかかる引き出しに保管し、情報漏洩に留意している。	利用者の肖像権を含めた個人情報を利用する場合は、利用目的を詳細に明記し、書面での同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。日頃から、信頼関係に努め、体調や生活リズムの安定を確保しながら、思いや希望を表現できるようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそってその人らしい暮らしが出来るように支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそってその人らしい暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、その方のこだわりを尊重している。(例えば、カット・カラー、買い物など)		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者の状態に応じて食事の準備や片付けを一緒に行っている。	献立は利用者の希望を聴き、隣接する同一法人の特別養護老人ホームの管理栄養士と相談をしながら決め、食材は特別養護老人ホームに注文している。 調理担当職員が自家菜園で利用者と一緒に収穫したミニトマトを食材に取り入れながら調理している。 利用者はできる範囲で下準備やテーブル拭き、後片付けなどの役割を担っている。 利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じ食事を摂るとともに、利用者の健康状態に合わせて、刻み食やペースト食などにして提供し、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている。かかりつけの医師により、水分制限の指示がある方は、それに従い、水分量を適切な量で摂って頂ける様に支援している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターンを、把握するとともにタイミングを見計らってさりげなく声かけ誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 おむつ対応の利用者でも日中はリハビリパンツを使用したり、リハビリパンツから布パンツに移行するなど、利用者一人ひとりに合った声かけをして排泄の自立に向けた支援をしている。 一部の利用者は、夜間不安なく過ごせるように、ポータブルトイレを居室に用意している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、便通を良くする飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴出来るように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴出来るように支援している。	風呂は週2回の入浴を基本としているが毎日沸かし、利用者の状態や希望によっては、入浴日や時間帯の変更、シャワー浴、足浴など個々に応じた入浴を支援している。 入浴を拒む利用者には、無理強いせず職員や時間帯を変えたり「お風呂入るとさっぱりするよ」や「お出かけするので入りましょう」など、利用者の興味のある話しをしながらさりげなく風呂場へ誘導し、無理なく入浴ができるよう工夫している。 冬至には柚子湯にして季節感を取り入れながら、入浴が楽しみなものになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。認知症や生活不活発病が進行しない程度に本人が自由な生活時間を過ごせる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また服薬の支援については、医師の指示通りの服薬を支援し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力量に合わせて食事づくりの手伝いや配膳、後片付け、散歩など利用者が張り合いや喜びが得られるよう、役割づくりをしている。又、レクリエーションや書道、行事等により外出し気分転換の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族等と協力しながら出かけられるように支援している。	<p>天気の良い日には、利用者と職員と一緒に事業所周辺を散歩し、五感を刺激して利用者が気軽に外気にふれられるよう支援している。</p> <p>年間行事計画を立て、初詣や季節の花見外出の行事を組み込み、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援している。</p> <p>車いすの利用者が、普段行けない場所や買い物などを希望した際には、家族等の協力のもと事業所のリフト車で職員も同行するなど、利用者の外出支援に力を注いでいる。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。外出の際は、金銭間違いがないように必要に応じた見守りなどの支援をしている。		/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、窓が大きく明るい。窓からは、外の景色が眺められる。窓の陽差しはカーテンやよしずで調節し、光の強さに配慮している。また、玄関や食堂には四季の花を飾り居心地良く過ごせるようにしている。	<p>玄関内の一角に、靴の着脱の際の転倒防止に長椅子が備え付けられているとともに、下駄箱を設置して余分な靴が玄関に無いように整理整頓している。</p> <p>居間兼食堂の大きな窓からの採光で、部屋全体を明るく暖かくしているほか、真夏には「よしず」で日差しの調節をしながら快適に過ごせるよう工夫している。</p> <p>壁には利用者と職員と一緒に制作した、向日葵や花火などの季節に合ったちぎり絵やペットボトルを利用して制作した風鈴、利用者が書いた習字を飾り、季節感を取り入れている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下等に木製のベンチが用意しており、利用者には自由に過ごしてもらっている。又、食堂には、ソファが置いてあり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせる様にしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物や、家族の写真、思い出の品などを持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。また、転倒などの危険がないように環境整備に心掛けている。	居室にはベッドや洗面台、下駄箱付整理棚、クローゼットが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら、使い慣れた整理箆や扇風機、家族の写真、観葉植物など、思い思いの物品を持ち込んで居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーである。廊下は車椅子がゆったり通れる広さが確保されており、高齢者に使いやすい位置に手すり、コンセントなどがつけられている。自動火災報知通報装置設備のほか安全に暮らせるよう工夫されている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくら館

作成日 平成28年1月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	14	利用者の肖像権を含めた個人情報を利用する場合は、利用目的を詳細に明記し、書面での同意を得る事が望まれる	個人情報を利用する場合は、利用目的を詳細に明記した書面での同意を得る	個人情報の利用目的を詳細に明記した書類を作成し、入居者及び身元引受人の同意を得る	平成27年度中
2	12	重度化や終末期、看取り介護に向けて、全職員の精神面や支援に向けて話し合うとともに、役割や支援内容など具体的な研修を行うことを提案する	重度化や終末期、看取り介護に向けて、全職員の精神面や支援に向けて話し合うとともに、役割や支援内容の研修を行う	職員会議や新任現任研修等で、看護師を講師に研修を行っていく	早急に研修内容を組み込んでいく
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。